

現在の景気：県内景気は、全体としてはコロナ禍による落ち込みからの持ち直しの動きが続いているが、対面サービス消費が足踏みするなど、一部で弱さがみられる。企業の動きをみると、製造業では、世界貿易回復などに支えられた改善の動きが続いている。非製造業では、建設関連や自動車販売などは底堅いうえ百貨店売上も上向き気配にあるが、外食・娯楽・宿泊など対面サービスでは弱い動きが続いている。これまでの県内景気の牽引要因、すなわち、①建設や食品製造業などの企業業績堅調、②交通インフラ整備関連などの豊富な官民プロジェクト、③災害復旧・復興工事需要、などに大きな変化はない。先行きは回復軌道を進るとみられるが、変異種の感染増加など新型コロナウイルス感染症の終息時期がなお見通せないことから、依然として不透明感が強い。

3か月程度の見通し：東京都等へのまん延防止等重点措置の適用などで、非製造業の一部で引き続き弱めの動きとなるが、製造業では持ち直しが続く見込みであり、業種間のバラツキを伴いつつ、全体として回復基調を維持する。

個人消費：①上向き気配。②2月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比15.0%減と4か月連続で前年を下回った。1月（同28.4%減）に比べ、マイナス幅は縮小したが、コロナ禍の影響がなかった前々年との比較では20.0%減となった。3月は気温の上昇もあって客足が回復し、季節物衣料などで動きがみられる。2月の自動車販売台数は同1.3%増で、3か月連続で前年を上回った。一般乗用車（同3.9%減）は減少したが、軽乗用車（同6.7%増）は増加した。

住宅建築：①一服。②2月の新設住宅着工戸数は、前年同月比18.6%減少し、3か月ぶりに前年を下回った。持家（同10.6%増）は増加したが、分譲（同29.7%減）、貸家（同27.5%減）は減少した。

設備投資：①減少。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、2月の工事床面積（年度累計）は前年同期比4.8%減少し、工事予定額も同8.3%減少した。千葉経済センターによる県内企業213社アンケート調査（12月実施）では、20年度の設備投資計画は19年度実績額を18.8%下回り、期初から3.4%下方修正された。

公共工事：①増加。②2月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同期比9.3%増加した。県（同11.1%減）は減少したが、国（同25.6%増）、市町村（同12.3%増）、独立行政法人等（同12.1%増）は前年を上回った。

輸出：①一服。②2月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は、前年同月比1.9%減と3か月ぶりに減少した。成田空港では、米国向けの内燃機関（同44.6%減）や電気計測機器（同16.1%減）などの減少により、同1.3%減と3か月ぶりに前年を下回った。千葉港は、有機化合物（同8.5%減）などの減少により、同12.6%減と10か月連続で前年割れとなった。木更津港は、自動車（同28.5%増）や鉄鋼（同2.7%増）の増加により、同6.3%増と11か月ぶりに前年を上回った。

生産活動：①上向き。②1月の県鉱工業生産指数（季調済）は、96.2（前月比0.3%上昇）と2か月連続で上昇した。化学工業（同3.3%低下）や鉄鋼業（同0.9%低下）は低下したが、金属製品工業（同7.1%上昇）や食料品工業（同5.0%上昇）などは改善した。

観光：①持ち直し気配。②高齢者層を中心に外出自粛傾向が続いているが、気温の上昇など陽気が上向くなか緊急事態宣言が解除され、観光地では入り込みや宿泊予約が少しずつ持ち直してきたとの声も聞かれている。TDRでは、4月より営業時間の延長や入園者数の引き上げ（各パーク1日1→2万人）を行うなど、段階的に制限緩和を進めている。

雇用情勢：①下げ止まり。②2月の有効求人倍率（季調値）は、前月比0.01ポイント低下の0.84倍と2か月ぶりに低下した。緊急事態宣言の発令などもあって、有効求人数が同3.3%減少した。

【トピックス】

- ・任期満了に伴う千葉県知事選挙で、元千葉市長の熊谷俊人氏が過去最多の約140万票を獲得し当選した（21日）。就任後初のコロナ感染対策本部会議では、感染防止対策を徹底する飲食店への認証制度を創設する意向を示した（4月6日）。また、千葉市長選挙は元副市長の神谷俊一氏が当選した（21日）。
- ・県は国に対し、洋上風力発電整備の「促進区域」有望候補として、「いすみ市沖」の情報を提供した（29日）。
- ・政府は21年度道路関係予算配分概要において、北千葉道路の未整備区間うち、市川市堀之内～大町間の自動車専用道路1.9kmと一般道路3.5kmの新規事業化を決定した（30日）。